



カケハシ・プロジェクト（米国）高校生派遣 （太平洋戦争博物館）の記録

1. プログラム概要

【目的】日本の高校生が米国を訪問し、テキサス州での現地総領事館への訪問や太平洋戦争博物館などの視察、現地の学生との交流を通じて、政治、経済、社会、文化、歴史、平和に向けた外交政策、日米関係について理解を深め、訪問先で自らが日本の魅力の発信を行う事で、米国の対日理解の促進を図るとともに、日本への理解・支持の拡大（推進）し、日本の外交基盤を強化に寄与することを目的として本プログラムを実施しました。

【参加者】日本の高校生及び学校関係者 計 14 名

私立追手門学院高等学校（大阪府）学生 3 名

私立追手門学院大手前高等学校（大阪府）学生 3 名及び引率者 1 名

福岡県立太宰府高等学校 学生 3 名

福岡県立筑紫高等学校 学生 4 名及び引率者 1 名

【訪問地】米国 テキサス州ヒューストン、フレデリックスバーグ

2. 日程

プレプログラム（オンライン事前学習）：

11 月 22 日（水曜日）渡航前オリエンテーション

派遣プログラム：

12 月 20 日（水曜日） 羽田空港から出国、ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル・ヒューストン空港から米国に入国

【視察】スペースセンター・ヒューストン

【オリエンテーション】

12 月 21 日（木曜日） 【表敬訪問】在ヒューストン日本国総領事館 総領事 村林 弘文氏

【講義】「テキサス州の概要について」

講師：在ヒューストン日本国総領事館 副領事 山村 真人氏

【講義】「JAXA の事業紹介 有人宇宙開発とヒューストン駐在事務所の役割」

講師：JAXA ヒューストン駐在員事務所 所長代理 高橋 茜氏

【学校交流】Post Oak School の学生

12 月 22 日（金曜日） ヒューストンからフレデリックスバーグへ移動

【視察】国立太平洋戦争博物館

【地域交流】フレデリックスバーグ周辺在住の高校生、ホームステイ
受入家族、地域住民

【ホームステイ】フレデリックスバーグ 6 家庭

12 月 23 日（土曜日） 【ホームステイ】フレデリックスバーグ 6 家庭

12 月 24 日（日曜日） 【ワークショップ】報告会準備（プログラムの学びや気づきのまとめ、
帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【報告会】アクション・プラン発表

【ホストファミリー歓送会】

12 月 25 日（月曜日） フレデリックスバーグからヒューストンへ移動

【視察】リバー・オークス地区周辺

12 月 26 日（火曜日） ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル・ヒューストン空港から出国

12 月 27 日（水曜日） 羽田空港に入国

3. プログラム記録写真



12 月 20 日【視察】スペースセンター・ヒューストン



12 月 21 日【表敬訪問】在ヒューストン日本国総領事館 総領事 村林 弘文氏



12 月 21 日【講義】集合写真



12 月 21 日【学校交流】Post Oak School の学生とおにぎり作り



12月21日【学校交流】記念撮影



12月22日【視察】国立太平洋戦争博物館



12月22日【地域交流】



12月23日【ホームステイ】お菓子作り



12月24日【ワークショップ】



12月24日【報告会】



12月24日【歓送会】



12月25日【視察】リバー・オークス地区周辺散策

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

アメリカでは「多様性」が強調されていて、その事にとっても驚き、日本との文化の違いを身にしみて感じました。また、日本とアメリカの政治について、NASA、JAXA について聞くことができ、日米の政治や宇宙開発についてまた違った視点を持つことが出来ました。

◆ 高校生

日本紹介のプレゼンをした後、質疑応答だけで終わるのではなく、一緒におにぎりを作ったり、ホームステイをしたりと、現地の高校生と会話や交流ができる機会があつて良かったです。

◆ 高校生

これまで実際にアメリカの方とお話しをする機会があつても、自分から話すことはありませんでしたが、現地ではお話ししました。英語は難しかったです、楽しかったです。書ききれないくらい沢山の経験をさせて頂いて嬉しかったです。

◆ 高校生

ホームステイで日本とアメリカの文化の違いを沢山見つけられ、そしてその都度ホストファミリーとお互いの文化を共有できたのが楽しかったです。

◆ 引率者

現地の生徒と日本の生徒が実際に直接交流を行う貴重な機会（プレゼン、ワークショップ、ホームステイなど）を持てたのが良かったです。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

時差もある中、大変真剣に話を聞いて下さり、こちらが身の引き締まる思いでした。宇宙開発について、まだまだ皆さんに広まってないことを感じ、広報活動を地道に続けていく重要性を再認識しました。

◆ 交流校教員

学校交流のプログラムに参加した学生の間に日本や日本文化をもっと知りたいと興味が湧いている様子が見えます。今後もこのような文化交流の機会を持ちたいと思いますし、日本での文化交流プログラムについて既に検討を始めています。

◆ 視察先

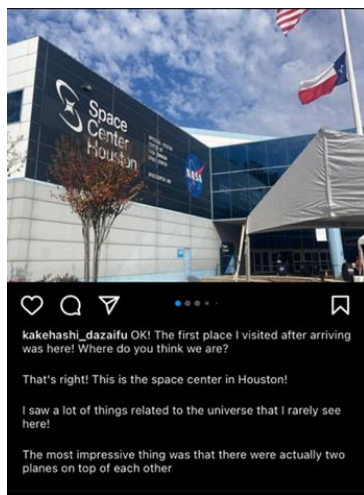
カケハシ・プログラム参加学生やホストファミリーと、ホームステイでの交流がどうだったか、どのような冒険をしたかを聞くのは本当に楽しかったです。皆が素晴らしい時間を過ごし、互いに何かを学び合えたことを聞けて本当に良かったと思っています。

◆ ホストファミリー

生徒たちから多くのことを学び、とても楽しかったです。日本人の目を通して、日本の伝統、文化、食べ物など、些細なことまで話を聞く事ができ、日本が更に興味深く、魅力的なものになりました。ホームステイは私たち家族にとって素晴らしい経験で、10代の娘たちはこれから何年も連絡を取り続けられる友人を作ることができました。アメリカと日本でそれぞれの人生は全

く違っても、彼女たちにはこれから大きな未来が待っていて、それに向かって新しい友達を作り、新しい経験をしたいと思っている同じティーンエイジャーなのだと実感しました。

6. 参加者の対外発信（抜粋）



2023 年 12 月 20 日（Instagram）

到着して最初に訪れたのはここ！どこだと思えますか？そうです!!ここはヒューストンにあるスペースセンターです！ここでは普段見ることが滅多に無い宇宙に関するものを沢山見れました！（中略）他にも沢山のことを見てきたので全部お話ししたいところですが、今回はここまで！次はどこでしょう！



2023 年 12 月 21 日（Instagram）

学校紹介とおにぎり作りで交流をしました。発表では大きなリアクションをありがとう！

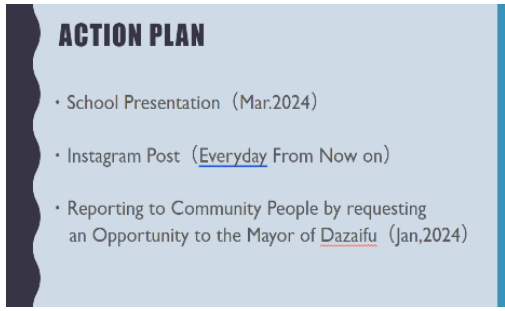


2023 年 12 月 24 日（Facebook）

本当に素晴らしい 2 日間をありがとう!この素敵な時間を決して忘れません。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：米国 テキサス州ヒューストン、フレデリックスバーグ（全4グループのうち発表一例）

	
【訪米中の学び】 ・アメリカでは誘拐が多発していて、危険な地域が多く、日本の方がより安全だと思いました。 ・ホームレスが多く、貧富の差が非常に大きいと感じました。 ・アメリカ人は家族の結び付きが強く、一緒にいる時間を大切にします。 【アクション・プラン】 帰国後1月中に下記を予定しています。 1. 全校集会で今回の米国訪問での学びを報告します。 2. 学校の公式ホームページに米国での経験についての記事を掲載、および個人のInstagramに投稿します。 3. 動画作成を実施し、日米の文化、人間性、生活様式、学校生活の違いを比較、分析してさらに1週間の米国滞在での気づき、学びを広く共有していきます。	【訪米中の学び】アメリカ人について ・フレンドリーで、自分の意見をしっかり持っていて、ポジティブ、開放的だと思います。 ・日本人に比べて多様性を重視しています。 ・自分の意見をしっかり持ち、それをストレートに表現します。 ・目が合うと会釈し、感情表現が豊かでコミュニケーションが上手だと思います。 【アクション・プラン】 Instagramへの投稿を日々行う傍ら、ワークショップで完成できなかった日米のライフスタイル、食生活、服装文化の違いについての気づき、学びのまとめをします。2024年1月中に太宰府市長にお願いし、米国での学びを地域住民と共有できる場を提供して頂き、発表します。また、全校集会での発表を3月24日に実施する予定です。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）